

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2022年10月14日

【四半期会計期間】 第24期第2四半期(自 2022年6月1日 至 2022年8月31日)

【会社名】 株式会社エディア

【英訳名】 Edia Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 賀島 義成

【本店の所在の場所】 東京都千代田区一ツ橋二丁目4番3号

【電話番号】 03-5210-5801(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営企画室室長 米山 伸明

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区一ツ橋二丁目4番3号

【電話番号】 03-5210-5801(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営企画室室長 米山 伸明

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第23期 第2四半期 連結累計期間	第24期 第2四半期 連結累計期間	第23期
会計期間	自 2021年3月1日 至 2021年8月31日	自 2022年3月1日 至 2022年8月31日	自 2021年3月1日 至 2022年2月28日
売上高 (千円)	1,205,138	1,303,489	2,494,085
経常利益 (千円)	54,844	77,943	113,815
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	40,783	79,804	108,101
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	40,783	79,804	108,101
純資産額 (千円)	799,716	921,300	869,062
総資産額 (千円)	1,600,547	1,538,453	1,551,676
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	6.66	13.02	17.66
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	6.44	11.35	15.39
自己資本比率 (%)	50.0	59.8	56.0
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	144,723	40,741	139,263
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	3,910	2,449	9,095
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	101,090	95,489	197,526
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	936,099	771,820	829,018

回次	第23期 第2四半期 連結会計期間	第24期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2021年6月1日 至 2021年8月31日	自 2022年6月1日 至 2022年8月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	2.81	5.71

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### 1 経営者の視点による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する分析・検討内容

##### (1) 財政状態及び経営成績の状況

###### 経営成績の状況

当社グループを取り巻く環境におきましては、2021年におけるモバイルコンテンツ市場は2兆8,224億円（対前年比107%）、中でもスマートフォン市場は2兆8,149億円（対前年比108%）と年々成長を続けております。スマートフォン市場の内、ゲーム市場が1兆5,973億円（対前年比104%）、電子書籍市場が4,395億円（対前年比111%）、動画・エンターテインメント市場が4,147億円（対前年比121%）、音楽コンテンツ市場も1,651億円（対前年比113%）と引き続き拡大傾向にあります（一般社団法人モバイル・コンテンツ・フォーラム調べ、2022年7月現在）。一方で、当該ゲーム市場には多くのスマートフォンゲームが投入され、競争が激化しており、より高品質のゲームを投入するために開発費が増加する傾向にあります。また、電子書籍市場においても、インターネット上の小説等をコンテンツ化するビジネスモデルに多くの競合他社が参入しており、その作品確保の競争が激化しています。さらに、動画・エンターテインメント市場及び音楽コンテンツ市場においても、消費者ニーズの多様化に伴う構造変化に晒されています。また、新型コロナウイルス感染症の拡大についても依然として予断を許さない状況であり、先行きの不透明感は払拭できていない状況が続いております。

このような事業環境の中、当社グループは総合エンターテインメント企業として、エンタメIPの創出・取得とそれらのクロスメディア展開を加速させ、事業の多角化と収益力向上に注力して参りました。

当第2四半期連結累計期間のIP事業におきましては、ゲームサービスにおいて、様々なイベントを通じて長期運営タイトルの安定推移を目指したものの、前年同期比では売上が減少することとなりましたが、当社保有のレトロゲームタイトルの復刻版の販売や、欧米市場に向けたライセンスアウトにより、売上の減少を補っております。

一方で、オンラインくじサービスの『くじコレ』、女性顧客向けオンラインくじサービス『まるくじ』は前期に引き続き、人気IPとのコラボレーションを行うなど積極的に展開し、当社グループの収益に貢献いたしました。

出版事業におきましては、コミック新刊数増加により、紙出版・電子書籍共に売上が大きく伸び、目標どおり進捗しております。

BtoB事業におきましては、法人向けコンテンツ受託制作、他社のゲームサービスのローカライズ及び運営受託など堅調に推移しております。

以上の通り、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,303,489千円（前年同四半期比8.2%増）と微増、IP事業におけるライセンスアウトやグッズ販売等、利益率の高い売上が大きく伸長したこと、また子会社本社移転によるグループフロア統合に伴い本社固定費用が大幅削減され、営業利益は79,976千円（前年同四半期比38.2%増）、経常利益は77,943千円（前年同四半期比42.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は79,804千円（前年同四半期比95.7%増）と利益は大幅な改善となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。このため、前年同期比較は基準の異なる算定方法に基づいた数値を用いております。詳細については、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（会計方針の変更）（収益認識に関する会計基準等の適用）」をご参照下さい。

###### 財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は1,538,453千円となり、前連結会計年度末に比べ13,223千円の減少となりました。これは主に現金及び預金や無形固定資産が減少したことによるものであります。

負債合計は617,152千円となり、前連結会計年度末に比べ65,461千円の減少となりました。これは主に前受金や借入金が増加したことによるものであります。また、純資産合計は921,300千円となり、前連結会計年度末に比べ52,238千円の増加となりました。これは主に当第2四半期連結累計期間が四半期純利益となり利益剰余金が増加した

ことによるものであります。

#### キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ57,197千円減少し、771,820千円となりました。各キャッシュ・フローの状況とその要因は以下のとおりであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は40,741千円（前年同四半期は144,723千円の獲得）となりました。その主な要因は、棚卸資産の増加25,655千円があったものの、当期利益の計上77,943千円、売上債権の減少3,745千円があったことによります。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は2,449千円（前年同四半期は3,910千円の支出）となりました。その主な要因は、有形固定資産の取得による支出が2,449千円があったことによるものであります。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果支出した資金は95,489千円（前年同四半期は101,090千円の支出）となりました。その主な要因は、短期借入金の返済による支出145,000千円、長期借入金の返済による支出20,471千円があったことによるものであります。

#### (2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (3) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	11,680,000
計	11,680,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2022年8月31日)	提出日現在 発行数(株) (2022年10月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,128,000	6,128,000	東京証券取引所 (グロース)	単元株式数は100株であります。
計	6,128,000	6,128,000		

(注) 提出日現在発行数には、2022年10月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2022年6月1日～ 2022年8月31日	-	6,128,000	-	10,663	-	663

(5) 【大株主の状況】

2022年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式 を除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
原尾 正紀	東京都豊島区	998,400	16.29
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	320,310	5.23
株式会社ミートプランニング	群馬県高崎市倉賀野町3199-1	251,000	4.10
楽天証券株式会社	東京都港区南青山2丁目6番21号	150,100	2.45
JPモルガン証券株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目7-3	110,700	1.81
西村 裕二	東京都渋谷区	108,000	1.76
夏目 三法	大阪府大阪市此花区	104,600	1.71
賀島 義成	東京都荒川区	80,000	1.31
小林 有一	群馬県藤岡市	43,000	0.70
山口 秀明	愛知県安城市	35,000	0.57
計		2,201,110	35.92

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2022年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,125,800	61,258	権利内容に何らの制限のない当社における標準となる株式であります。単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 2,100		
発行済株式総数	6,128,000		
総株主の議決権		61,258	

(注) 単元未満株式欄には、当社所有の自己株式42株が含まれております。

【自己株式等】

2022年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社エディア	千代田区一ツ橋神田二丁目4番3号	100	-	100	0.00
計	-	100	-	100	0.00

(注) 上記以外に自己名義所有の単元未満株式42株を保有しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2022年6月1日から2022年8月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(2022年3月1日から2022年8月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	830,218	773,020
売掛金	495,358	-
売掛金及び契約資産	-	491,613
商品及び製品	43,909	45,416
仕掛品	9,433	33,537
原材料及び貯蔵品	78	122
前払費用	12,986	35,696
未収入金	23,010	20,208
その他	20,089	35,103
貸倒引当金	19,937	19,937
流動資産合計	1,415,147	1,414,781
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	0	0
工具、器具及び備品（純額）	4,844	6,292
有形固定資産合計	4,844	6,292
無形固定資産		
ソフトウェア	250	-
その他無形固定資産	12,000	10,000
のれん	29,605	18,478
無形固定資産合計	41,855	28,478
投資その他の資産		
敷金及び保証金	32,469	32,469
繰延税金資産	51,004	51,004
その他	6,354	5,426
投資その他の資産合計	89,828	88,900
固定資産合計	136,528	123,671
資産合計	1,551,676	1,538,453

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年8月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	172,020	190,185
短期借入金	<sup>1</sup> 136,250	<sup>1</sup> 61,250
1年内返済予定の長期借入金	<sup>2</sup> 39,526	<sup>2</sup> 38,014
未払金	109,956	102,485
未払費用	4,305	5,433
未払法人税等	3,318	335
未払消費税等	17,446	5,891
前受金	16,088	-
契約負債	-	25,636
預り金	9,815	9,651
賞与引当金	11,974	10,748
情報利用料引当金	2,722	2,614
返品調整引当金	24,599	-
返金負債	-	49,958
その他	3	188
流動負債合計	548,026	502,393
<b>固定負債</b>		
長期借入金	<sup>2</sup> 132,693	<sup>2</sup> 113,733
長期未払金	1,894	1,025
固定負債合計	134,587	114,758
負債合計	682,614	617,152
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	10,663	10,663
資本剰余金	728,911	728,911
利益剰余金	128,759	181,015
自己株式	117	135
株主資本合計	868,216	920,455
新株予約権	845	845
純資産合計	869,062	921,300
負債純資産合計	1,551,676	1,538,453

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年3月1日 至2021年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年3月1日 至2022年8月31日)
売上高	1,205,138	1,303,489
売上原価	491,090	536,202
売上総利益	714,048	767,286
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 656,185	<sup>1</sup> 687,310
営業利益	57,862	79,976
営業外収益		
受取利息	10	34
助成金収入	1,005	-
その他	680	450
営業外収益合計	1,695	485
営業外費用		
支払利息	4,529	2,284
その他	185	234
営業外費用合計	4,714	2,518
経常利益	54,844	77,943
特別損失		
本社移転費用	<sup>2</sup> 7,271	-
特別損失合計	7,271	-
税金等調整前四半期純利益	47,572	77,943
法人税、住民税及び事業税	6,789	335
法人税等還付税額	-	2,197
法人税等合計	6,789	1,861
四半期純利益	40,783	79,804
親会社株主に帰属する四半期純利益	40,783	79,804

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年3月1日 至2021年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年3月1日 至2022年8月31日)
四半期純利益	40,783	79,804
四半期包括利益	40,783	79,804
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	40,783	79,804

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	47,572	77,943
減価償却費	5,447	4,257
のれん償却額	11,127	11,127
貸倒引当金の増減額(は減少)	4	-
賞与引当金の増減額(は減少)	625	1,225
情報利用料引当金の増減額(は減少)	157	108
返品調整引当金の増減額(は減少)	1,017	24,599
返金負債の増減額(は減少)	-	17,881
受取利息及び受取配当金	10	34
支払利息	4,529	2,284
助成金収入	1,005	-
本社移転費用	7,271	-
売上債権の増減額(は増加)	101,651	-
売上債権及び契約資産の増減額(は増加)	-	3,745
棚卸資産の増減額(は増加)	9,360	25,655
仕入債務の増減額(は減少)	6,739	18,165
未払金の増減額(は減少)	46,936	8,187
その他	16,433	34,568
小計	162,421	41,025
利息及び配当金の受取額	7	34
利息の支払額	4,725	2,715
法人税等の支払額	13,987	3,318
法人税等の還付額	1	5,715
助成金の受取額	1,005	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	144,723	40,741
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	3,810	2,449
定期預金の預入による支出	700	600
定期預金の払戻による収入	600	600
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,910	2,449

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	-	70,000
短期借入金の返済による支出	75,000	145,000
長期借入金の返済による支出	26,090	20,471
自己株式の取得による支出	-	17
財務活動によるキャッシュ・フロー	101,090	95,489
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	39,722	57,197
現金及び現金同等物の期首残高	896,376	829,018
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 936,099	1 771,820

## 【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、従来は売上総利益相当額に基づいて流動負債に計上していた「返品調整引当金」については、返品されると見込まれる製品についての売上高及び売上原価相当額を認識しない方法に変更しており、返金負債を流動負債の「返金負債」として計上し、返品資産を流動資産の「その他」に含めて表示しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高が15,632千円増加し、売上原価が831千円減少し、販売費及び一般管理費が95千円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ16,559千円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は27,548千円減少しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「売掛金及び契約資産」に含めて表示し、また「流動負債」に表示していた「前受金」の一部は、第1四半期連結会計期間より「契約負債」として表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取り扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

(追加情報)

(連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用)

当社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

(資金決済法における仮想通貨の会計処理等に関する当面の取扱いの適用)

「資金決済法における仮想通貨の会計処理等に関する当面の取扱い」(実務対応報告第38号 2018年3月14日)に従った会計処理を行っております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 当社グループにおいては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行1行と当座貸越契約を締結しております。当第2四半期連結会計期間末における当座貸越契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年8月31日)
当座貸越契約の総額	170,000千円	100,000千円
借入実行残高	96,250 "	11,250 "
差引額	73,750千円	88,750千円

2 保証債務

次の会社の金融機関等からの借入金に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年8月31日)
株式会社一二三書房	43,264千円	34,500千円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)
役員報酬	38,970千円	50,940千円
給料手当	103,087 "	130,828 "
支払手数料	292,122 "	288,753 "
広告宣伝費	33,117 "	25,450 "
業務委託費	44,725 "	39,585 "
賞与引当金繰入額	3,163 "	6,649 "
返品調整引当金繰入額	1,017 "	- "
減価償却費	2,356 "	1,466 "
のれん償却額	11,127 "	11,127 "

2 本社移転費用

前第2四半期連結累計期間(自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)

子会社本社移転に係る固定資産除却、移転費用等を本社移転費用として特別損失に計上しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)
現金及び預金	936,699千円	773,020千円
預入期間が3か月を超える定期預金	600 "	1,200 "
現金及び現金同等物	936,099千円	771,820千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2021年5月26日開催の定時株主総会決議により、2021年7月31日付で、会社法第447条第1項及び会社法第448条第1項の規定に基づき、資本金及び資本準備金の額を減少し、これらをその他資本剰余金に振り替えるとともに、会社法第452条の規定に基づき、増加後のその他資本剰余金2,183,189千円を繰越利益剰余金に振り替え、欠損補填を実施しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金10,000千円、資本剰余金728,247千円、利益剰余金61,440千円となっております。

なお、これによる株主資本の合計金額への影響はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループはエンターテインメントサービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第2四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)

(単位:千円)

	売上高
プラットフォーム・グッズ等	808,322
役務の提供及び請負業務	329,081
紙出版・音楽CD	162,335
その他	3,750
顧客との契約から生じる収益	1,303,489
その他の収益	-
外部顧客への売上高	1,303,489

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	6円66銭	13円02銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	40,783	79,804
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	40,783	79,804
普通株式の期中平均株式数(株)	6,119,504	6,127,887
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	6円44銭	11円35銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	217,075	900,673
(うち新株予約権)	(217,075)	(900,673)

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年10月11日

株式会社エディア  
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 田 尻 慶 太 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 島 津 慎 一 郎 印

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社エディアの2022年3月1日から2023年2月28日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年6月1日から2022年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年3月1日から2022年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社エディア及び連結子会社の2022年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。